

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390900110		
法人名	医療法人福寿会		
事業所名	グループホーム高梁2号館		
所在地	高梁市落合町阿部2029-1		
自己評価作成日	令和3年9月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390900110-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和3年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内に内庭があり、ベンチや椅子があるので、自由に外に出て、散歩をしたり休憩が出来たり出来る。また畑や花壇もある為に、季節に応じた野菜や花を楽しみ、四季を感じる事が出来る。リビングや各居室におおきな窓があり、開放的で圧迫感がなく過ごすことが出来る。買い物の希望があるご利用者様は、可能な限り職員と共に外出し、御本人でみて購入して頂ける。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

できる限り家と同じように過ごして欲しいという思いから、集団生活や団体行動を強くない支援をしている。間食の習慣がある利用者には、1週間分のお菓子を渡し居室で好きな時に食べてもらっている。2か月に一度美容師の訪問があるが、行きつけの美容院があれば、受診の後などに家族の協力を得て行っている。盆栽や花が好きな利用者には、植物の生育の良し悪しに関わらず、積極的に世話をしてもらっている。入院の可能性がある利用者に対し、家族と過ごせる日を作った。その日は、孫や息子等利用者の血縁者が大勢来てくれ、半日ほど一緒に過ごすことができた。最期は病院へ転移したが、家族は一時でも自宅に戻れたことを心から感謝している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の提示はしているが、職員間での共有したり、実践につなげられるように努めた	管理者は、「尊重し寄り添い、ホームでの生活が安心・楽しく過ごせる」という理念にのっとり、相手の立場に立った行動をと職員に伝えている。しかし、理念の周知が不十分に感じる。	理念に掲げるサービスの提供には努めているが、理念を知らない職員もいる。職員会議等で理念の共有を図って欲しい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	通常であれば、地域との交流は努めているが、新型コロナウイルス感染の観点より、出来ていない。	法人で借りている畑を近所の人に貸し、自宅用の野菜や花を植えてもらっている。実家が農業を営む職員が居るので、野菜を植える時期等を相談に来ることもある。お花の先生は忙しい職員を気遣って、予め花器に生けた花を持って来てくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状では、出来ていないと思われる。少しずつ機会を増やし地域交流をふまえて努力していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議自体が、新型コロナウイルスで中止となり開催されていない。事業所の議事録は、委員会の皆様に発送はしている。	現在、運営推進会議は開催していないが、議事録を委員の人達に郵送している。その際、返信用の封筒と一緒に意見書を送付し、意見を聞く機会を作っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナウイルスで、対面での話面は難しいが、電話やオンラインでの関係づくりに努めている。	不明点があれば、市に出向いて尋ねている。利用者の介護保険の更新手続きの際は、利用者の状況を説明しながら相談に乗ってもらう。コロナの感染対策を市の指導の下、実践している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会の設置及び、年間目標を掲げ、目標を実践できるように努めている。	事業所は施錠をしていないので、いつでも外へ出られる環境である。利用者が外へ出ても、居間の窓から把握することができ、見守りながら自由に過ごしてもらえる。玄関に「めざせスピーチロック0」を掲げ、職員同士で指摘し合える環境づくりに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の委員会より研修会を実施し、職員同士での声掛けができるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はあるが、現状で理解はあまりできておらず、今後機会を設け、周知できるように努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	分かりやすく、説明しながら話し合いを進めるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置と、御利用者・御家族から話を聞き出せるように努めている。	家族の要望は、電話や受診時に尋ねている。入居時に、利用者の好きな盆栽や花の鉢植えを持ち込み、家族から「植物の生育の良し悪しに関わらず、本人に世話をさせて欲しい」と頼まれ、支援が行き過ぎないようにしている。	コロナ禍が落ち着いたら、行事に家族を招待し、家族同士の交流を図りたいと考えている。実現に期待を寄せる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	御利用者に関する事は、意見の反映はできているが、運営に関することはできていないために出来るように心がけたい。	日頃から管理者に意見や提案が言いやすいと職員ヒヤリングで教わった。月1回の会議で、利用者に対し気になる案件を議題として挙げてもらい、意見交換をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は来られることはなく、統括に意見を発信しても、代表に届いているかは、不明。現場の現状を知り、時間を設けて頂きたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修などには、参加できるが、施設外となると、人員の確保が難しい。参加できるように努めたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービス向上には努めているが、管理者以外の職員が、同業者と接する機会が設けられないので、設けられるように努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には、本人の意見・意向を伺い、入所後、見守る姿勢・聴く姿勢・察する姿勢を継続することで、信頼関係を築ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の意見・意向をしっかりと聴き、不安を取り除き、安心できるように心掛けている。また話を聴き対応する事で、信頼関係を築ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用時に、必要な支援を見極めるように、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御利用者の状態に応じた関りを意識し、共に生活する視線の元に関係性を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時にその都度ご家族様に近況をお伝えし、御家族様・御利用者様の思いを知り、中間の立場として良い関係を築ける様に努めている。新型コロナウイルスの影響で面会が難しい状況で、TV電話など活用していきたいと思っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスで、面会の規制はあるが、電話や手紙などでのやりとりが出来るように努めている。	面会が出来なかった時期は、家族に利用者宛の手紙を書いて欲しいと頼んだ。電話で話をすることもあるが、難聴の人は声が聞き取りにくいので、骨振動イヤホンを購入してもらった。直接声を聞く事ができるようになり、利用者も喜んでる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように配慮し、お互いの信頼関係が築ける様に支援に努めている。また個々に合った生活スタイルを大切に、楽しみ・親しみを感じ、共有できる雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談があれば、フォローし支援できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で、希望を聞けるように努め、本人の思いに沿ったケアが出来るように、努めている。	表情や様子などから利用者の意向を把握している。英語が好きな利用者には、ネットから英語の物語を探したり、子ども新聞の英語の問題を渡したりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人・御家族に話を伺い、生活歴の把握に努めている。日々の会話の中から情報を得て、職員で共有し、それに添って支援ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の健康状態を把握し、気になる行為・言動については、それ都度、カンファレンスを行い職員全体で、共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に、御利用者・御家族と意見交換を行い、状態の変化に努め、計画作成に反映できるように努めている。	水分でむせたり、失禁が増えたりした場合など、利用者の状態に変化があれば、カンファレンスを実施し、計画を見直している。更新時は、医療連携の記録、介護記録、申し送りノートを確認しながら、利用者の現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の変化を記録に残し、情報開示可能な状態を維持しつつ、職員間での情報の共有が出来るように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	固定観念にとらわれず、柔軟な発想を意見交換で共有し支援できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わり合いが出来る事は、参加できるように努めているが、新型コロナウイルスで、難しくある為に、参加できる方向での検討模索中		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御利用者・御家族の意向でかかりつけ医の継続、決定をしている。医師との連携しからの早期対応が出来るように努めている。	かかりつけ医の継続支援をしている。医療機関は9機関あるが、全て受診支援をしている。医師から「体調はどうですか」と尋ねられたら、まず本人に答えてもらい職員はその補足をするようにしている。家族にも医師の話を直接聞いてもらえるよう、病院で待ち合わせたり、事業所から一緒に行ったりしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変わった事や気づきを訪問看護師に伝え、相談しご利用者様が適切な受診が行えるように支援している。また、電話で随時相談できるように関係づくりに努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関、御家族と密に連絡をとり、病院での情報を伺い、ホーム内での情報を伝えている。早期退院に繋がるような連携を心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでの看取りはできないが、その都度の状態を御家族に伝え連携が取れるように努めている。	入居時に、「看取りはできないが可能な限り家族と協力しながら支援をする」と説明している。経口摂取が不可能となり、点滴でしか栄養補給ができない場合は、医師と家族と相談しながら、利用者のことを第一に考えて、他施設への変更を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や救急対応はできるように努めており、その都度の反省を資料などで配布しているが、新しい事については、まだシュミレーションが必要だと思われる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等は、開催しているが、地域との協力体制が取れるように努めていきたい。	元消防職員から防火防災教育DVDの存在を教えてもらった。職員はそのDVDで学び、出た意見をもとに来年度の訓練に活かしたいと考えている。近隣に住む現消防職員に、協力を依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかいに注意しケアに心掛け、職員同士での注意が出来るように努めている。	援助が必要な時も、まずは本人の気持ちを大切に考え、支援が行き過ぎないように心掛けている。プライバシーに関しては、利用者の情報は職員間での共有に留めるように徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の意思を尊重し、自己決定や選択が出来るような働きかけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員本位のケアではなく、御利用者一人ひとりの希望や状態を考慮し、チームケアでの支援が出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪の際には、御本人の希望を聞きカットしたり、個々の身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	御利用者の出来る事は手伝いをして頂けるように、心掛けている。	地産地消を大切にし、米や豆腐等は地元の業者から購入している。フィリピンからの実習生が郷土料理を作ってくれ、珍しい食事に利用者も喜んだ。白い器によそわれた白米が、目に見えにくく食べない利用者には、内側に色のついた茶碗で提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	御利用者個別の対応を意識し、量や形態、形状を変化し対応できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛けを実施し、各御利用者にあったケアを実践し、職員が必要以上に介助しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が出来るように御利用者の状態を把握し、声掛けや支援が出来るように努めている	食事等の活動や居室へ戻る前等に声を掛け、トイレへ誘導している。同じ空間に人が居ると、落ち着いて排泄ができないとの考えから、外で見守りをしている。利用者も援助が必要な時は、ブザーで呼んでくれる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量・適度な運動・食事量など御本人の状態に合わせて検討し、便秘予防に取り組んでいる。また排泄チェック表に排便の形・量を記入している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自己決定が出来るように、声掛けや支援をしているが、眠前に入浴は、職員の配置上難しい。	一日おきに入浴支援をし、声を掛けて希望の時間帯を確認している。汗をよくかく利用者には、着替える際に「シャワーを浴びますか」と尋ね、希望すれば対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御利用者の状態とリズムを考慮し、声掛けをしている。それに必要な環境づくりにも努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	当日勤務者での確認と、服薬前に再確認している。副作用についても理解できるように努めている。また御利用者ごとの服薬の形状変化も医師と相談し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	可能な限り、各御利用者それぞれの時間を大切に過ごせるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で、外出等は難しくある為に、ホーム中庭への散歩で、気分転換が出来るように心がけている。	玄関も居室の窓も鍵は掛けず、いつでも自由に外へ出ることができる。畑へ出かけ、職員と一緒に野菜を育てている利用者もいる。国分寺迄ドライブに出かけたこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族様に了解を得て、少量での金額であれば、御利用者に管理して頂けるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に、電話や手紙でのやり取りできるように支援している。難聴の御利用者については、骨振動イヤホンでのテレビ電話も対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの生花や制作物などを、リビングや廊下に設置し、季節ごとの行事を取り入れて季節が感じ取れるように努めている。また各居室についても、安全で快適な空間づくりに努めている。	リビングは過ごしやすいようソファの配置を考え、落ち着ける空間づくりに努めている。居室と廊下の寒暖差が無いようオイルストーブを置き、廊下が冷えないようにしている。テレビは常につけず、自然の鳥の声を聞いてもらう。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各個人にあった空間づくりに努めている。テーブル・椅子・ソファなどの配置に工夫し、その時々にあった空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御利用者が家庭で使い慣れた物を持参して頂いている。	使い慣れた家具等を持ち込んでもらっている。ラジオでクラシックを聞いたり、毎朝主人の遺影に、お茶を淹れ直して供えたりする等、各々思い思いに過ごせる空間づくりの支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の出来る事を見極め、各個人が自立した生活を過ごせるように支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390900110		
法人名	医療法人福寿会		
事業所名	グループホーム高梁2号館		
所在地	高梁市落合町阿部2029-1		
自己評価作成日	令和3年9月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390900110-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和3年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内に内庭があり、ベンチや椅子があるので、自由に外に出て、散歩をしたり休憩が出来たり出来る。また畑や花壇もある為に、季節に応じた野菜や花を楽しみ、四季を感じる事が出来る。リビングや各居室におおきな窓があり、開放的で圧迫感がなく過ごす事が出来る。買い物の希望があるご利用者様は、可能な限り職員と共に外出し、御本人でみて購入して頂ける。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の提示はしているが、職員間での共有したり、実践につなげられるように努めた		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	通常であれば、地域との交流は努めているが、新型コロナウイルス感染の観点より、出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状では、出来ていないと思われる。少しずつ機会を増やし地域交流をふまえて努力していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議自体が、新型コロナウイルスで中止となり開催されていない。事業所の議事録は、委員会の皆様に発送はしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナウイルスで、対面での話面は難しいが、電話やオンラインでの関係づくりに努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会の設置及び、年間目標を掲げ、目標を実践できるように努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の委員会より研修会を実施し、職員同士での声掛けができるように心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はあるが、現状で理解はあまりできておらず、今後機会を設け、周知できるように努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	分かりやすく、説明しながら話し合いを進めるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置と、御利用者・御家族から話を聞き出せるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	御利用者に関する事は、意見の反映はできているが、運営に関することはできていないため出来るように心がけたい。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は来られることなく、統括に意見を発信しても、代表に届いているかは、不明。現場の現状を知り、時間を設けて頂きたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修などには、参加できるが、施設外となると、人員の確保が難しい。参加できるように努めたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービス向上には努めているが、管理者以外の職員が、同業者と接する機会が設けられないので、設けられるように努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には、本人の意見・意向を伺い、入所後、見守る姿勢・聴く姿勢・察する姿勢を継続することで、信頼関係を築ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の意見・意向をしっかりと聴き、不安を取り除き、安心できるように心掛けている。また話を聴き対応する事で、信頼関係を築ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用時に、必要な支援を見極めるように、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御利用者の状態に応じた関りを意識し、共に生活する視線の元に関係性を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時にその都度ご家族様に近況をお伝えし、御家族様・御利用者様の思いを知り、間の対峙場として良い関係を築ける様に努めている。新型コロナウイルスの盛況で面会が難しい状況で、TV電話など活用していきたいと思っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスで、面会の規制はあるが、電話や手紙などでのやりとりが出来るように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように配慮し、お互いの信頼関係が築ける様に支援に努めている。また個々に合った生活スタイルを大切に、楽しみ・親しみを感じ、共有できる雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談があれば、フォローし支援できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で、希望を聞けるように努め、本人の思いに沿ったケアが出来るように、努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人・御家族に話を伺い、生活歴の把握に努めている。日々の会話の中から情報を得て、職員で共有し、それに添って支援ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の健康状態を把握し、気になる行為・言動については、それ都度、カンファレンスを行い職員全体で、共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に、御利用者・御家族と意見交換を行い、状態の変化に努め、計画作成に反映できるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の変化を記録に残し、情報開示可能な状態を維持しつつ、職員間での情報の共有が出来るように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	固定観念にとらわれず、柔軟な発想を意見交換で共有し支援できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わり合いが出来る事は、参加できるように努めているが、新型コロナウイルスで、難しくある為に、参加できる方向での検討模索中		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御利用者・御家族の意向でかかりつけ医の継続、決定をしている。医師との連携しながらの早期対応が出来るように努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変わった事や気づきを訪問看護師に伝え、相談しご利用者様が適切な受診が行えるように支援している。また、電話で随時相談できるような関係づくりに努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関、御家族と密に連絡をとり、病院での情報を伺い、ホーム内での情報を伝えていく。早期退院に繋がるような連携を心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでの看取りはできないが、その都度の状態を御家族に伝え連携が取れるように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や救急対応はできるように努めており、その都度の反省を資料などで配布しているが、新しい事については、まだシュミレーションが必要だと思われる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等は、開催しているが、地域との協力体制が取れるように努めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかいに注意しケアに心掛け、職員同士での注意が出来るように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人の意思を尊重し、自己決定や選択が出来るような働きかけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員本位のケアではなく、御利用者一人ひとりの希望や状態を考慮し、チームケアでの支援が出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪の際には、御本人の希望を聞きカットしたり、個々の身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	御利用者の出来る事は手伝いをして頂けるように、心掛けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	御利用者個別の対応を意識し、量や形態、形状を変化し対応できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛けを実施し、各御利用者にあつたケアを実践し、職員が必要以上に介助しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄が出来るように御利用者の状態を把握し、声掛けや支援が出来るように努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量・適度な運動・食事量など御本人の状態に合わせて検討し、便秘予防に取り組んでいる。また排泄チェック表に排便の形・量を記入している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	自己決定が出来るように、声掛けや支援をしているが、眠前入浴は、職員の配置上難しい。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御利用者の状態とリズムを考慮し、声掛けをしている。それに必要な環境づくりにも努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	当日勤務者での確認と、服薬前に再確認している。副作用についても理解できるように努めている。また御利用者ごとの服薬の形状変化も医師と相談し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	可能な限り、各御利用者それぞれの時間を大切に過ごせるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で、外出等は難しくある為に、ホーム中庭への散歩で、気分転換が出来るように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族様に了解を得て、少量での金額であれば、御利用者に管理して頂けるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に、電話や手紙でのやり取りできるように支援している。難聴の御利用者については、骨振動イヤホンでのテレビ電話も対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの生花や制作物などを、リビングや廊下に設置し、季節ごとの行事を取り入れて季節が感じ取れるように努めている。また各居室についても、安全で快適な空間づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各個人にあった空間づくりに努めている。テーブル・椅子・ソファなどの配置に工夫し、その時々にあった空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御利用者が家庭で使い慣れた物を持参して頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の出来る事を見極め、各個人が自立した生活を過ごせるように支援している。		